



韓国・ソウル大学における 入学査定官を活用した 入学者選抜

韓国ソウル大学入試部 次長・森林科学学科 教授

パク・ピルソン

(「センター発足記念国際セミナー」－平成28年9月9日－の講演より)

こんにちは。お話を始める前に、まずはこの会を主催してくださった大阪大学にお礼申し上げます。他の大学の入学者選抜について多くを見聞き、議論する機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。

私は韓国在住で、ソウル大学のアドミッションオフィスの副部長をしております。韓国も日本同様に、毎年、入試のことが社会で大きな話題となる国の一つです。今年（2016年）の入学査定は来週から始まりますので、現在はかなり張り詰めた雰囲気になっています。

まず最初に、ソウル大学での入学査定の様子をご紹介してから、書類評価について掘り下げてご説明したいと思います。

ソウル大学における大学入学者選抜

ソウル大学では、早期入試と定時（一般）入試という2種類の入学査定を行っています。【資料1】早期入試は多面的・総合的評価のみによって行います。また、早期入試にも2つのタイプがあり、一つは高校長推薦、もう一つは早期一般選抜です。早期入試は9月に始まります。9月に出願書類の提出があって、私たちが審査を行うのが10月、合否判定が出るのが大体12月の第1週目です。早期入試で

不合格となった生徒たちにはその後もう一度チャンスがあります。これが定時入試です。韓国にはCSAT：College Scholastic Ability Test（大学修学能力試験）という試験があります。これは日本のセンター試験のようなものです。このテストは11月中旬に実施され、定時入試では、生徒たちはこのスコアをもって入学の申し込みをします。定時入試ではCSATのスコアだけを見ます。定時入試の選考は12月に始まり、合否判定は1月に出ます。

こちら【資料2】はソウル大学に割り当てられた入学者数です。政府から毎年割り当てられる入学者数は3,000名と少しです。この通常の定員に加えて、特別な配慮を要する生徒のための特別枠の入学者数があります。この内、機会均等選抜特別枠Iの査定は早期入試と同時期に行われます。機会均等選抜特別枠Iとは、低所得世帯の生徒と、都市から遠く離れた農村や漁村に住む生徒を対象としています。機会均等選抜特別枠IIは、障がい者と脱北者を対象していますが、割当人数は非常に少ないものになっています。

ソウル大学の今年（2017年度）の通常の定員は3,136名です。早期入試で全体の約77%を受け入れる予定です。なお、定時入試での受け入れは約23%となります。また、早期入試の内訳をみる

と、高校長推薦は約23%、一般選抜は50%強であり、この一般選抜枠がソウル大学の入学査定の大きな部分を占めていることが分かります。これに加えて、特別枠があります。こちらの特別枠について政府が許可したのは、わずか164名です。また、定時入試での障がい者枠は18名しか割り当てられていません。韓国では入試は大きな問題であり、大学が自分たちの好きに入学者を増やすことはできません。入学者数は政府の許可を得なければ決められないのです。以上のことから、ソウル大学の割り当てはこの人数になっています。

入学者選抜区分と選抜方法

高校長推薦による早期入試について、ざっと説明いたします。早期入試には2つのタイプがあり、その内の1つである高校長推薦では、各高校がソウル大学に対して2名の生徒を推薦します。言い換えれば、高校1校につき、2名しか推薦できません。ソウル大学はおそらく韓国で最難関の大学ですから、この方法でソウル大学に入学希望ができるのは、原則として各高校でトップの2名ということになります。高校長推薦枠で提出するのは学校生活記録簿および推薦状などの書類です。これらの書類を元に評価が行われ、この段階で定員の約2倍の人数が面接に進みます。この面接ですが、英国のブリギッテ先生が紹介されたビデオを拝見した時に、ソウル大学の面接とケンブリッジ大学の面接が非常に似ているのでとても驚きました。この面接では特にテーマを決めずにいろいろなことについて話をし、創造力や論理性を試します。勉強のことも少しは話しますが、生徒を全体的に評価するのが目的です。以上が高校長推薦による査定のプロセスです。なお、書類審査では、生徒の学校での記録しか見ませんので、学力が大学の基準を満たしているかどうかの確認が必要です。そこで、CSATのスコアの最低ラインを設けています。面接を通過できても、CSATのスコアが最低学力基準に達していなければ合格にはなりません。【資料3】

こちら【資料4】は早期入試の一般選抜です。全ての大学がこの方法を採用しています。この方法にも2つの段階があり、まず書類審査があって、これ

にパスすれば、募集人員の2倍に相当する入学希望者が面接に進みます。面接では、一般的なインタビューに加えて口頭試問が行われます。口頭試問の内容は希望する学部によって異なります。例えば、数学科に進学を希望する生徒には、数学の問題が出されます。まず一般的な面接を15分行い、その後、およそ45分間が口頭試問の解答時間として与えられます。ソウル大学では同じ学部に進学を希望する生徒全員に同じ問題を与えます。出題して解答時間を与え、時間が来たら面接室に入って答えを示し、教員たちと話し合います。

美術学部や音楽学部のように実技の能力が求められる学部では、口頭試問に代わって描画や演奏の実技試験が行われます。以上がソウル大学の主要な入学査定です。

韓国では、早期入試で大学に一つでも合格すれば、その生徒は定時入試に申し込むことはできません。ですから、12月に始まる定時入試に申し込む生徒は、早期入試ではどこにも合格しなかったということになります。定時入試では評価は完全にCSATのスコアだけで行いますので、ソウル大学でもほぼ全ての学部でCSATスコアだけを見ます。ただし教育学部体育教育科だけは違い、ランニングやダンスなど、専攻に合った実技試験を行います。

そして特別枠として、機会均等選抜特別枠IとIIがあります。低所得層の生徒や遠隔地の生徒を対象とする機会均等選抜特別枠Iの選抜プロセスは、高校長推薦などと全く同じです。まず出願書類を提出し、私たちはその書類に基づいて審査をします。ただし、この段階では選抜は行わず、入学希望者は100%面接に進みます。そして面接の後、合否判定に至ります。機会均等選抜特別枠IIでは、障害のある生徒に対してはCSATスコアの提出が求められません。と言いますのは、身体上の問題のために、高校に3年間続けて通えない生徒もいますので、学校生活記録簿の審査が難しい場合があるのです。そのため、3年分の学校生活記録簿を提出する代わりに、大学の講義について来られるだけの学力があるか否かをCSATで見るとのことです。体は弱くても、アカデミックな能力は素晴らしい生徒もいますので、書類審査と面接に加えてCSATスコアを見ます。特別枠に

[2017年度] 入試の種類

	入試の種類	
	早期入試	定時（一般）入試
定員内	<ul style="list-style-type: none"> 地域均等（高校長推薦）選抜 一般選抜 	<ul style="list-style-type: none"> 一般選抜
特別枠	<ul style="list-style-type: none"> 機会均等選抜特別枠 I * 	<ul style="list-style-type: none"> 機会均等選抜特別枠 II **

* 機会均等選抜特別枠 I : 低所得世帯の学生、農山漁村出身の学生、
農山漁村系列の専門科目を30単位以上履修した学生(農業生命科学学部)

**機会均等選抜特別枠 II : 特別支援教育対象者, 北朝鮮離脱住民

資料1

[2017年度] 募集人員

▶ 定員内

	早期入試		定時（一般）入試	合計
	地域均等 (校長推薦) 選抜	一般選抜	一般選抜	
2017年度	735名(23.4%)	1,672名(53.3%)	729名(23.3%)	3,136名
2016年度	681名(21.7%)	1,688名(53.8%)	766名(24.4%)	3,135名
2015年度	692名(22.1%)	1,675名(53.4%)	771名(24.6%)	3,138名

* 歯学部の学士・修士統合課程の別枠45人含む

▶ 特別枠

早期入試	定時（一般）入試	合計
機会均等選抜特別枠 I	機会均等選抜特別枠 II	
164名	18名 以内	182名 以内

資料2

[早期入試] 地域均等選抜

▶ 選抜方法

- 書類評価と面接の結果を総合して合否判断を行う
※ 美術学部、音楽学部は書類評価、面接、実技試験の結果を総合して合否判断を行う

▶ 大学修学能力試験※ 最低学力基準 ※大学修学能力試験：韓国で実施されている大学共通の入試試験

- 4教科(韓国語, 数学, 英語, 社会/科学)の内、3教科以上で2級以上の成績であること
※ 音楽学部 声楽科, 器楽科: 4教科(韓国語, 数学, 英語, 社会/科学)の内、2教科以上で2級以上の成績であること
- 学部別の‘大学修学能力試験応募基準’を必ず満たすこと

例

〈文学部〉

大学修学能力試験の受験
を要する教科・科目

- 韓国語, 数学(B), 英語, 韓国史, 社会/科学, 第2外国語/漢字
- 韓国語, 数学(A), 英語, 韓国史, 科学/社会

資料3

は以上のように2つのタイプがあります。

多面的・総合的評価への転換

続いてこちら【資料5】をご覧ください。これが、私たちの目指すキャンパス像です。ソウル大学では、優れた学力と積極性はもちろんのこと、グローバル社会にふさわしい資質を備え、他人に対する思いやりの心を持つ生徒を求めています。また、ソウル大学では、ダイバーシティも非常に重視しています。生徒のバックグラウンドが審査に影響を及ぼすことはありませんが、多様なバックグラウンドを持つ学生を入学させる努力はしており、機会均等選抜特別枠IとIIを継続運用しているのはこのためです。

では、ソウル大学の多面的・総合的評価について簡単にご紹介します。1990年代まで、韓国のほとんどの大学ではCSATスコアに基づいて入学者選抜を行っていました。しかし、3年間の勉強の成果を1日の試験で決めてしまうようなやり方では、試験当日に具合が悪くなってしまったり、そもそも体が弱かったりという理由で、試験で実力を出せない場合があります。公平な評価ができていないとは言えない、こうした現実を問題視する声は次第に大きくなっていきました。そして、大学側も同様に感じていました。

ソウル大学では、学力に優れていることはもちろんですが、他者への配慮ができ、人を助けようとする人格を持った生徒を望んでいます。他方、大学によって求める資質はさまざまですから、創造性を重視する大学などもあるわけです。CSATスコアで分かるのは学力だけですから、大学の間で不満があったのです。

また、高校側も不満を抱えていました。CSATで試験されるのは5、6科目ですので、生徒たちはCSATで高いスコアを出すためにその科目だけを勉強しがちになり、他にも大切な科目があるのに、そちらはあまり勉強しない傾向が見られました。

高校は試験ベースの入学査定の見直しを望み、大学はさまざまな資質を持った生徒を選べるシステムを望み、こうした多くの不満の声に、政府も入学査定の方法を改善せざるを得なくなりました。結

果、これらにかかる解決策として、新しい入学査定システムが開発されることになりました。おそらくソウル大学は、新システムの開発に韓国で初めて着手し、構築した大学だと思えます。

多面的・総合的評価では具体的に誰が何を評価するのか

ソウル大学は、2001年に多面的・総合的評価システムの研究を開始し、2007年に運用を始めました。システムの開発に6～7年を要したことになります。生徒たちは、2007年になって、やっとCSATスコアの代わりに学校生活記録簿などの出願書類を提出するようになったのです。2007年当時、多面的・総合的評価システムを利用する生徒の割合は大きくありませんでしたが、徐々に増えて、現在ではソウル大学に入学する生徒の約75%が多面的・総合的評価システムを経て入学しています。

ソウル大学の早期入試で実施する学校生活記録簿総合選抜は、学校生活記録のみに基づいた多面的・総合的評価システムで、生徒を多面的・総合的に評価します【資料6】。生徒の成績の記録は、私たちが最も重視する要素ですが、課外活動や高校生活で示した熱意の度合いも考慮に入れます。また、そうした活動に関わった動機や取り組みの状況は、各学部が非常に重視する点です。教室での活動については、学校生活記録簿で、特に協働学習と主体的学習に注目して判断します。学校での全般的活動については、読んだ本や好きな本、そして勉強に対する積極性が評価されます。勉強面では、より高度で難しいものを対象として勉強するチャレンジ精神を重視します。生徒には、興味を持ったことについてより掘り下げて勉強し、広い知識を身につけようとする姿勢を持ってもらいたいと思っています。また、獲得した知識を活用する能力も見ています。

こちら【資料7】はソウル大学の入学査定官が審査する上での着目点です。この生徒はなぜ一生懸命勉強したのか？この生徒は最善を尽くしたのか？もっと何かする余地はあるか？などの問いを念頭に審査を行います。

ソウル大学の書類審査にあたり、生徒が提出する書類は4種類です。高校が用意する学校生活記録

1. 募集要項 重要事項

[早期入試] 一般選抜

서울대학교
SEOUL NATIONAL UNIVERSITY

▶ 選抜方法

- 全学部（教育学部、自由専攻学部、美術学部、音楽学部を除く）

学部 (早期入試の一般選抜/全定員)	選抜方法		第2段階	
	書類評価	募集人員に対する倍率	第1段階 点数	面接・口頭試問
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文学部 (176/278) ・ 社会科学部 (164/364) ・ 理学部 (149/250) ・ 看護学部 (27/63) ・ 経営学部 (40/135) ・ 工学部 (418/780) ・ 農생명科学部 (115/297) ・ 生活科学学部 (36/107) ・ 獣医学部 (25/40) ・ 医学部 (45/95) ・ 歯学部 歯学科 (30/45) 	100%	2倍	100%	100%

資料4

2. 早期入試における評価方法

ソウル大学が求める学生像

서울대학교
SEOUL NATIONAL UNIVERSITY

- 学校の教育課程を誠実に履修し、学修能力が優秀な学生
- グローバルリーダーとして成長できる資質を持っている学生
- 積極的で前向きな態度を持っている学生
- 他者に対する配慮が出来、コミュニティー意識がある学生
- 多様な教育的、社会的、文化的背景と経験を持っている学生

資料5

2. 早期入試における評価方法

多面的・総合的な選抜 (学校生活記録簿に基づく総合選抜)

서울대학교
SEOUL NATIONAL UNIVERSITY

▶ 学校生活記録簿に基づく総合選抜とは？

画一的な量的評価方法の限界を克服し、学生が持っている学習能力、学業に対する熱意、意思、熱情、積極性、チャレンジ精神等を総合的に評価する方法

学校生活記録簿に基づく総合選抜

評価基準

多面的

評価方法

総合的

資料6

簿、生徒が作成する自己紹介書、推薦書、そして学校紹介資料です。学校紹介資料が必要なのは、韓国にはタイプの異なる高校がいくつかあるためです。例えば、科学や外国語を専門とする学校などがあります。科学専門の高校では、通常よりも高度な科学の科目やコースがあり、外国語専門の学校なら外国語に関する高度な授業が組まれています。大学は、このような各高校の特色を知る必要があります。

学力は、学校生活記録簿や自己紹介書、あるいは推薦書にもとづいて評価し、個人的特性は学校生活記録簿や自己紹介書で判断します。【資料8】通常、推薦書は担任教師か、時にはロールモデルとなる人が書きます。生徒によってはメンターに頼んで推薦書を書いてもらいますが、推薦書を書くメンターは教師である必要はありません。

生徒が書類を提出すると、私たちの書類審査が始まります。私たちの書類審査には4つのグループが関わっています。メインは入学査定官と学部教員の各グループです。私のオフィスに26名いる入学査定官は、評価のエキスパートです。そして、各学部からも1~2名の教員が査定に携わります。3つ目のグループは委員会です。委員会はアドミッションオフィスの部長と副部長、および職員で構成されています。4つ目のグループは、各学部の副学部長のグループです。この4つがソウル大学の入学査定プロセスに関わる主な審査者です。

ソウル大学の書類審査では、まず、この図【資料9】の1・2段階を入学査定官が担当します。これはダブルブラインド・テストです。それぞれの段階で、入学査定官たちは審査を独立して行い、どんな結果になったかを他方の段階を担当した査定官に知らせることはしません。もし出した結果に差異があれば委員会の協議にかけます。すると、委員会はアドミッションオフィスから出された結果について判定を行います。その後、学部教員が評価を行い、さらに続いて、副学部長が最終決定を行います。

韓国におけるオンライン入学査定システム

韓国では大学入試が国民の大きな関心事です。皆が大学の動向に注目しており、公平性は非常に重要です。ですから私たちは、あらゆるプロセスにおい

て高い透明性と公平性を確保しなければなりません。

韓国には、政府のオンライン入学査定システムがあります。このシステムは教育部が多額の予算と労力をかけて作り上げたもので、運用開始はおそらく2000年だったと思います。審査に必要な学校生活記録簿や学校紹介などの情報資料は、高校がこのシステムに入力します。推薦書も推薦者がこのシステムにオンラインで登録します。それから、生徒が大学入学の希望を申請し、自己紹介書を提出するもこのシステムにオンラインで行います。あらゆる資料が電子的に統合された、集中型オンライン入学査定システムです。高校と大学間に直接のコンタクトは一切ありません。透明性が非常に高くなっているということがお分かりいただけたと思います。

生徒が入学希望申請をすると、政府から全ての記録が全国オンライン入学査定システムを通して大学に提供されます。ソウル大学でも情報はこのシステムを介してのみ受け取ることができます。

評価資料についてももう少し触れておきます。この図【資料10】の下部に書かれているのは、学校生活記録簿に含まれる項目です。教科目標達成度には、教科履修状況と生徒の成績が含まれます。成績は素点や標準偏差などのデータで表されます。科目とグレード、そしてそのグレードを持つ生徒の人数、生徒の比率などの情報です。政府のシステムでは、こうした生徒の記録が全て一つの形式で管理されています。学校生活記録簿には、他にも校内受賞歴、読書活動の状況、行動特性と教師の総合的意見が含まれます。これらは通常、教師が作成します。他にも創造的な体験活動や進路希望が含まれ、そこに教師のコメントも入ります。この教師のコメントは、学校生活記録簿の中でも非常に重要な項目です。

それから自己紹介書ですね。生徒が何をなぜ勉強したいのかということを始め、他にもいろいろなことを書きます。

欧米の大学には、方針などを自由に決定する権限が与えられていると思いますが、韓国では社会の目があって、公平さや平等性が非常に重視されています。その中であって、政府と高校と大学は緊密に協力し合う必要があり、このオンライン入学査定シス

2. 早期入試における評価方法

入学査定官

서울대학교
SEOUL NATIONAL UNIVERSITY

個人的に記憶に残っている経験を挙げてください。

頑張って勉強した理由は？

- 与えられた条件で最善を尽くしたか？
- コミュニティの構成員としての自覚があるか？
- 積極的、継続的に努力してきたか？
- 多様な領域の知識を習得したか？
- 頑張って成長した自分の姿は？
- 主体的学習を行ったか？
- 知識を深めるためにどれくらい努力してきたか？
- 習得した知識を適切に活用した経験があるか？
- 学校生活において困った経験とそれを乗り越えた経験は？

資料7

2. 早期入試における評価方法

総合評価

서울대학교
SEOUL NATIONAL UNIVERSITY

学習能力
知的達成

知的
好奇心
自主導
積極性
情熱

個人的特性
学業外の
教養

総合評価

- 学生生活記録簿
 - 教科関連の達成状況(質的評価)
 - 学業に関する校内受賞
 - 能力の詳細及び特記事項(教科及び放課後学校*の履修内容)
 - 創造的な体験活動(学業関連の部活動、探求/研究活動)
- 自己紹介書/推薦書
 - 自己紹介書における学業に関する内容
 - 推薦書における学業に関する内容
- 学校紹介資料
 - 教科授業・校内コンテスト・校内プログラム等の実施状況
- 学生生活記録簿
 - 学業に関する校内受賞(校内大会参加率及び努力)
 - 創造的な体験活動(サークル、校内活動の、校内活動参加率及び努力)
 - 特記事項(授業参加率及び態度、上級科目の選択等)
- 自己紹介書/推薦書
 - 学業に対する努力、自主導型学習に対する態度、授業参加率
- 学生生活記録簿
 - 学業以外の学校内における受賞歴
 - 創造的な体験活動
 - 部活・サークル活動
 - リーダーシップ、責任感、コミュニティー意識
 - ボランティア活動で証明される思いやりの心
 - 出欠状況
- 自己紹介書/推薦書
 - 志願者の人格、対人関係

*放課後学校は私教育費の軽減と教育格差の解消を目的として、小学校、中学校、高等学校にて運営している。プログラムは小学校の履修後から大学級学力試験の準備に至るまで様々な種類のプログラムを運営している。

資料8

2. 早期入試における評価方法

評価の段階

서울대학교
SEOUL NATIONAL UNIVERSITY

準備段階

1 段階

2 段階

3 段階

4 段階

5 段階

評価方法開発及び研修

専任入学査定官による評価

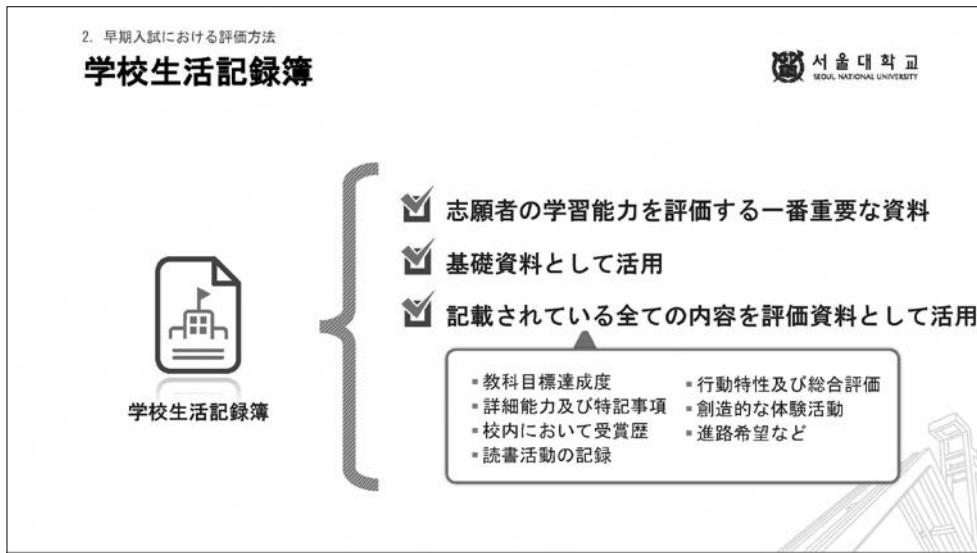
専任入学査定官による評価

1,2段階の評価結果の確認及び調整

学部教員による評価

評価委員会の最終判断

資料9



資料10

テムは非常に有効なシステムです。高校と大学の間
に癒着の疑いが生じないように、政府は生徒の記録
を収集し、大学に提供するシステムを開発しまし
た。ただ、こうしたネットワークシステムやインフ
ラにはお金がかかりますので、このシステムの管理
に要する、多くの学校の予算や入学査定官の給料な
どは政府が援助する必要があります。特に韓国では
政府の役割が非常に重要なのです。

高校では、CSATスコアを導入していますから、
教師は教えること以外にはあまりすることがないよ
うに見えますが、学校生活記録簿における教師のコ
メントは非常に重要です。普段の授業に加えて、生
徒全員の特性や意見をまとめなくてはならず、大変
な負担となります。そのため、システム導入当初
は、教師たちから不満が寄せられました。しかし、
それまでCSATの試験勉強だけをしていた生徒たち
が学校での学習態度に気を付けるようになり、授業
中に居眠りしていた生徒が授業に身を入れるよう
になると、教師たちも新システムを歓迎するよう
になりました。

一方、大学も、生徒の記録簿を審査し、面接を行
う技量が求められるようになりましたので、ソウル
大学もそうですが、入学査定官を新設することにな
りました。書類審査では一貫性が非常に重視される
ため、入学査定官になるためには500時間以上の訓
練を受けなければなりません。教員たちもアドミッ
ションオフィスにおいて一定時間の訓練を受けま

す。また、高校についての情報にも熟知する必要が
あります。こうして大学も重要な役割を担うことと
なりました。

ソウル大学は、新しい入学査定方法の導入から
10年が経ちました。現在この方法で入学する生徒
は全入学者数のおよそ75%を占めるようになりま
した。定時入試は、高校3年生の終わりに大学に合
格できなかった生徒にとっては有益です。もう1年
間勉強する猶予ができ、次の年にまた入学希望申
請をすれば、昨年と同様に入学査定を受けることが可
能です。実際にはほとんどの高校生が多面的・総合
的評価による入学者選抜を選んでいますが、この選
抜方法を導入する大学もどんどん増えています。

しかし、まだ解決できていない課題も多く残って
います。早期入試と定時入試の最適な割合や、高校
長推薦と一般選抜の割合などはその一例ですが、大
切なことは、多面的・総合的評価は継続的に研究
し、評価し、再分析していかなければならないとい
うことです。現時点では、理想とする形の半分とい
うところだと思います。これからも研究を続け、理
想を追い求めていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。